

せんだい普及センターだより

BLOSSOM

Vol.79

令和4年3月1日発行

発行：宮城県仙台農業改良普及センター（仙台地方振興事務所農業振興部）

〒981-8505 仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号

TEL 022-275-8320（地域農業班）

022-275-8410（先進技術第一班）

022-275-8374（先進技術第二班）

FAX 022-275-0296（共通）

E-mail sdnokai@pref.miyagi.lg.jp

URL <https://www.pref.miyagi.jp/site/sdnk/> →



シャインマスカット剪定講習会(粗剪定の様子)

県誕生150年 苦難を乗り越えて

普及センターでは、今年度5つのプロジェクト課題を計画し、地域農業の担い手育成や地域課題の解決に取り組んできました。次頁で紹介する2課題が終了し、3課題（えだまめの生産体制、ぶどうの生産・販売力向上、農村の維持発展）は今年度の成果や課題を踏まえ、来年度も継続して支援活動をしていきます。

さて、まもなく新年度となりますが、需要に応じた令和4年産米の「生産の目安」はさらに厳しさを増しています。昨年は飼料用米への緊急転換協力があつたほか、その後の米概算金の大幅下落は経営への打撃が大きく、「これ以上の米作付面積の縮減や米価下落はもう限界」との声も聞かれました。県は12月補正予算で、稲作（一般の主食用米）から園芸作物・大豆・麦・飼料作物などへ

の作付転換を促すため、機械・施設の導入や生産資材に要する経費の補助事業を創設しました。農家の皆さまの営農継続に向けた支援の一助となることを期待します。普及センターでは、転換作物にかかる栽培技術支援や経営の悩み事など、必要に応じて専門家にも協力いただきながら支援していきたいと考えています。

今年、宮城県は県誕生150年を迎えます。いつの時代も厳しい状況があつたと思いますが、それに耐えて、乗り越えてきた先人たちに対する尊敬と感謝の念を深め、郷土に対する更なる愛着を持ちつつ、今年も頑張っていましょ

総括技術次長 宮本 晴恵



プロジェクト活動の実績について (完了課題)

中山間地域農業を支える地域営農体制の構築

対象：倉内・大針地域活性化委員会地域営農部会6人（仙台市）（令和元～3年度）

令和元年から令和3年度までの3年間、仙台市青葉区の「倉内・大針農村地域活性化委員会」地域営農部会6人を対象に「農地整備後に導入される園芸作物の品目を決定するとともに技術習得が図られる」ことと「地域を支える集落営農組織が設立され、持続的な営農体制が構築される」ことを目的に活動しました。

導入予定品目の試験栽培では、3年間に様々な失敗を経験しましたが、確実に技術習得が図られました。また、その試験栽培結果等を検討し、たまねぎ、長ねぎ、ジャンボにんにくの3品目を農地整備後の栽培品目とすることになりました。



農地整備事業説明会

また、農地整備後の中心経営体になる集落営農組織を立ち上げるため、農地整備事業に関する集落説明会等を活用した地域内の合意形成や、法人設立に向けた手続き等について支援



設立総会

を行い、令和3年2月5日「農事組合法人うえずとファーム仙台」（構成員17人）が設立されました。さらに、令和3年5月1日、仙台市の認定農業者に認定され、名実ともに地域を支える集落営農組織が誕生しました。

令和4年度以降も仙台市、JA仙台西部営農センターとの連携体制を強化し、農事組合法人うえずとファーム仙台の営農確立に向けた支援を継続する予定です。

先進的園芸経営体の生産技術向上による経営安定

対象：株式会社イグナルファーム大郷（大郷町）（令和2～3年度）

株式会社イグナルファーム大郷は、令和元年東日本台風により施設等に大きな被害を受け、令和2年4月に復旧させた生産設備で営農を再開しました。普及センターでは、早期の経営回復に向けて、ミニトマトの収量向上や安定生産、作業効率化の支援を行ってきました。

具体的には、植物生理や病害虫の生態・防除などの栽培に関する基礎知識を習得するための勉強会開催、週間環境データ自動計算シート（ウィークリーレポート）の活用により、生育状況と栽培環境データを見える化することで、温度や湿度、葉数などを適正に管理し、樹勢や生長バランスを最適化できるよう、環境制御技術の習得支援などを行いました。

また、栽培管理マニュアルの作成支援や業務管理システムによる労働時間の把握と振り返りにより、作業



ウィークリーレポート活用支援

精度の平準化や作業の効率化を支援しました。

さらに、これらの支援を通じて、栽培経験の少ない若手職員の人材育成を図ってきました。

その結果、社内でウィークリーレポートを活用した情報共有や栽培管理を検討する体制が定着したほか、作業の優先度や労働時間データをもとに人員配置を検討するようになるなどの動きが見られ、こうした取り組みが生産量の増加や作業の効率化につながっています。

普及センターでは、さらなる生産技術の向上による経営安定化に向けて、引き続きフォローアップを行っていく予定です。



栽培振り返り検討



栽培マニュアルの整備支援

普及センター活動の紹介

「令和3年度農業法人ステップアップセミナー」を開催しました

普及センターでは、仙台市及び公益財団法人みやぎ産業振興機構と共催で「農業法人ステップアップセミナー」を開催しました。参加者の皆様には、マスクの着用やパーティションの使用等により新型コロナウイルス感染症対策に御協力いただきました。

毎年恒例の当セミナーは、今年度は農業法人の経営者及び若手・中堅社員を対象とし、人材育成や雇用管理、経営承継を題材に、令和4年1月7日から全4回コースで開催しました。普及センター管内の10法人から18名の参加がありました。講師として、一般社団法人ひと・企業未来創造リンク(LinCs)に所属する庄司弥生社会保険労務士、松倉恵子特定社会保険労務士をお招きし、組織力の向上と発展につながる講義と

ワークショップを行いました。また、最終回では、有限会社耕佑(栗原市)の伊藤秀太代表取締役から、「地域が継続するための事業継承・会社作り」と題

して実経験に則した事例紹介をしていただきました。参加者からは、「組織における自分の役割を再認識することができた」「経営承継の事例を聞くことができて大変勉強になった」などの声をいただきました。



ワークショップ

水田を活用した大規模露地園芸推進のための排水対策研修会を開催しました

県では令和3年4月に今後5か年の園芸振興計画「みやぎ園芸特産振興戦略プラン」を策定し、その中で水田における高収益作物生産の推進と安定生産技術の確立に取り組むこととしています。普及センターでは、大郷町の土地利用型法人によるえだまめの生産体系の導入定着について支援を行っており、課題として水田転作における排水対策の改善が浮き彫りになりました。

この課題解決に向け、令和4年2月8日に大郷町、農業・園芸総合研究所、仙台農業改良普及センターの主催により、大郷町の



研修会開会式

水田転作えだまめ栽培ほ場において、排水対策研修会を開催しました。最初に農業・園芸総合研究所と県園

芸推進課から水田を活用した大規模露地園芸推進の取組や関連施策について紹介があり、続いてヤンマーアグリジャパン(株)から、補助暗渠を施工する3機種カットブレイカー、カットドレーン、サブソイラーの説明と実演がありました。このうち2機種は最新の補助暗渠施工機であり、参加者(約60名:生産者・JA・関係機関等)は興味深く見学していました。令和4年度に状況を調査していきます。



カットブレイカーの説明

お知らせ

凍霜害の発生に備えましょう！

昨年は4月中旬の低温により、管内では、なしやりんご、ブルーベリーなどで凍霜害が発生しました。開花期や結実直後の幼果期は最も障

害を受けやすい時期で、春先の気温が高く推移し、開花期が前進した場合は、危険性が高まります。霜注意報や気象庁「農業気象ポータルサイト」などの情報に注意し、事前の被害軽減対策(※)に努めましょう。



凍霜害を受けたりんごの花(めしべの褐変)

また、もしもの場合に備えて、果樹共済などセーフティネットへ加入しましょう。

(※)被害軽減対策

- ・防霜資材や燃焼資材の活用
- ・草刈りの実施や敷きわらの除去、乾燥時のかん水、冷気の滞留を助長するような防風ネット等の除去
- ・被害を受けた場合には、人工授粉を徹底し、結実確保に努めましょう。

トピックス

株式会社仙台秋保醸造所（仙台市） 第51回日本農業賞「食の架け橋の部」優秀賞を受賞



代表取締役毛利親房氏

株式会社仙台秋保醸造所の毛利親房氏は、東日本大震災で途絶えた宮城のワイン産業復興と地域再生の思いから、一念発起して一からブドウ栽培とワイン造りに取り組み、県内に5か所のワイナリーが開設する波及効果をもたらしました。

また、「人、食、風景、文化」のキーワードを軸に、テロワール^{*}とマリアージュ^{*}を掛け合わ

せた造語「テロワージュ」を提唱、秋保温泉の旅館とタッグを組むだけでなく、宮城県内の酒蔵や工芸作家、宮城県も巻き込み、東北全体を盛り立てる様々なイベントを開催しています。

それらの活動が評価され、日本農業賞「食の架け橋の部」優秀賞を受賞しました。おめでとうございます。

^{*}テロワール：気候風土と人の営み、マリアージュ：食と酒のペアリング



収穫期のぶどう

佐々木千賀子氏（仙台市） 令和3年度宮城県農業・農村女性活躍表彰「女性起業・新規事業開拓部門」 最優秀賞を受賞



表彰式での佐々木千賀子氏（写真右）

農事組合法人仙台イーストカントリー理事の佐々木千賀子氏は、令和3年度宮城県農業・農村女性活躍表彰「女性起業・新規事業開拓部門」で最優秀賞を受賞しました。東日本大震災を契機に地域の女性たちの雇用の場を確保するため、法人経営に加工・販売部門を立上げ、農家レストラン「おにぎり茶屋ちかちゃん」を開業するとともに、地域伝来の味噌加工に取り組むなど、地域農業の活性化に寄与してきた功績が高く評価された受賞です。おめでとうございます。

農作業時の事故に注意しましょう！

- ・日頃から農機具を点検し、過去に経験したヒヤリハットを忘れずに安全に作業しましょう。
- ・乗用型機械は段差や勾配で転倒しやすいので作業開始前には場周辺の整備を行いましょう。
- ・不測の事態に備えるためにも、乗用型機械に搭乗する際はシートベルトは必ず着用しましょう。



安全フレームを倒したままの移動は危険



路上では必ずブレーキ連結



携帯電話に手が届かない場合、ホイッスルが有効



シートベルトを着用していれば転倒時に安全域にとどまれる可能性が高い



補助作業者を重しにするのは危険



ハウス内で後退時に支柱等に挟まれる危険有り



固いものにあたるとキックバックするので注意



堅い路面でダンシング

出典：一般社団法人 日本農業機械化協会

労働災害補償保険(労災保険)に加入しましょう

○雇用があれば原則加入の義務 ○家族経営であっても「特別加入(条件有り)」制度により対象となる

* 一定以上の障害には年金支給などの民間にはない有利な点があります

この印刷物は1,000部発行し、1部当たりの経費は34円です。